



# 「リフォーム」で快適わが家

VOL.9

## バリアフリー



西田 恭子さん直伝

### 眺望にこだわり 2階にDKを移動

介護が必要になったときには、体の状態にあわせてリフォームが大事ですが、加齢に備えたバリアフリー化は気力・体力ともに余裕のあるうちに考えておきたいもの。加齢による体の衰えは、いずれ誰もが経験することです。バリアフリーとは決して「古い支度」ではなく、今も将来も末永く生活を楽しむためのリフォーム。愛着あるわが家で豊かに暮らし続けるための準備、始めてみませんか？

兵庫県にお住まいのUさんは、築4年目で大規模なリフォームを決定されました。ご主人のリタイア後を想定され、より快適に豊かに暮らすための家づくりを意識されたのでしよう。Uさんのお宅は高台にあり、2階からは近隣の山々や街並みの広がる絶景を見渡せます。ただし新築時は、重い荷物を持って階段を上り下りする大変さを思い、1階にLDK、2階に寝室をつくられました。そのため魅力的な眺望を1日のわずかな時間しか目にできないことが、ご夫婦の不満となつて

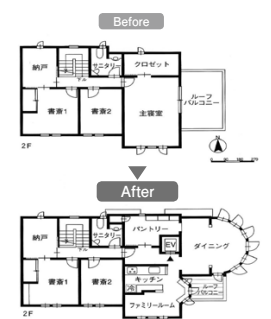
いったのです。リフォームではまず、眺望の素晴らしいスペースで日常の大半を過ごせるよう、2階にDKを移動。不安を感じていた動線的な問題は、エレベーターを設置してクリアしました。

### 思わぬ事故を 避ける工夫を

バリアフリー化の際、段差のない床面も重要ですが、狭い場所での方向転換も思わぬ転倒の原因となり、避けたい事項の一つです。そこでU邸では、1階に移動した寝室に出入り口を2つ設置。リビングと洗面・浴室・トイレの両方へダイレクトに行け、なおかつ回遊できる生活動

線を築きました。また、寝室とトイレの位置を近くすることも大事なポイントです。トイレやお風呂なども、事故防止を考えればある程度の広さが必要。洗面・浴室・トイレを一体型にし、透明なガラスで間仕切りをして広やかさを演出することもできます。

さらに、明るさと温度も重要なポイント。明るさは視野の狭まりをカバーしてくれますし、家の断熱性を上げ床暖房なども活用すれば温度差からくる身体的なストレスを軽減できます。身体的な衰えは、家の機能を高めることでカバーできる。バリアフリーとは、末永く生活を楽しむための工夫なのです。



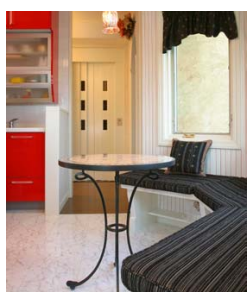
2階の間取り図。主寝室を1階に移し、DKを2階に移動。エレベーターはダイニングの隣に設置している。



絶景を見渡せる、2階の食堂  
リフォームのきっかけとなった2階の食堂。窓を広く設置したことで、素晴らしい眺望を楽しみながら食事ができる。



階段も見通しよく改善  
階段も手すりや壁から縦格子に変更。降りる人と上る人がぶつからないよう、明るく見通しのよい階段にした。



2階のエレベーターとファミリールーム  
奥に見える白い扉がエレベーターの出入り口。キッチンわきのファミリースペースは、朝食用のスペース。キッチンから食卓までの動線を短くするのもバリアフリーの1つ。



土足で出入りできるウェルカムサロン  
終の住処（ついのおすまか）ともなれば、ご近所づきあいも多くなるはず。近隣の方々と気軽に交流できる場所にしようと、土足で出入りできるウェルカムサロンを設置した。

次回のテーマ  
「エコ・リフォーム」  
お楽しみに！



【三井のリフォーム住生活研究所】所長  
西田 恭子 (にしだ きょうこ) さん  
住宅リフォーム設計を手がけ25年。その経験からリフォームの情報収集・分析をし発信している。一級建築士

三井のリフォーム  
住生活研究所  
Life Style Labo

西田さんが所長を務める「三井のリフォーム 住生活研究所」は、2007年10月にオープンしたリフォーム業界初のシンクタンクです。研究所のスタッフ全員が女性のリフォームプランナーで、累計10万にもぼるリフォーム実績をもとに、「リフォームカレッジ」でさまざまな情報発信を行っています。またリフォームに関わる書籍も「減築」リフォームでゆうゆう快適生活」など多数発行している。  
東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー7階「リモデル東京」内  
TEL:0120-312-122  
営業時間：10:00～17:00（水曜・日曜・祝日定休、年末年始休業）  
www.lifestyle-labo.com